

# 対象年齢拡大が進む市町村 乳幼児等医療費給付制度の実施状況で明らかに

2014年4月1日現在の県内市町村の乳幼児等医療費給付制度の実施状況を長野県がまとめた。(表参照)

18歳到達後の3月31日までの自治体は41町村で、前年から6町村増えて県内自治体数の53.2%となり過半数を超えた。6町村は昨年4月までは中学校卒業までとしていた青木村、宮田村、池田町、小谷村、栄村、18歳到達月までとしていた南牧村。

また、入院・外来とも中学校卒業までとする自治体は34で伊那市が新たに加わった。このため中学卒業以上を対象とする市町村は75で97.4%となり、中学卒業までカバーしていないのは入院・入

院外ともに小6までとする長野市と入院中学卒、入院外小6とする坂城町の2市町のみとなった。

一方、県の制度は入院小3年、外来小学校就学前までであり市町村の実施状況との乖離が目立ち、各市町村の対象年齢上乗せ部分は市町村が独自財源で賄っている形だ。いずれも窓口で一部負担金を払っての償還払いの制度で、かつ償還時には受給者負担金(表の欄外)が差し引かれる。現在、保険医協会では子ども、障がい者の福祉医療制度の窓口無料化の運動に取り組んでいるが、県制度の対象年齢拡大ももうひとつの重要な課題である。

乳幼児等医療費給付事業の市町村実施状況 平成26年4月1日現在

対象年齢		所得制限	市町村数			該当市町村					
入院	外来		市	町	村	食費助成なし		食費1/2助成	食費助成あり		
小3まで	小学校就学前	所得制限なし				(県制度と同じ)					
小6まで	小6まで	所得制限なし	1		1	長野市					
	小6まで	所得制限なし		1	1	坂城町					
中学校卒業まで	中学校卒業まで	所得制限なし	18	9	7	34	上田市	飯田市	伊那市	松本市	岡谷市
							駒ヶ根市	大町市	飯山市	須坂市	諏訪市
						塩尻市	千曲市	佐久市	小諸市	茅野市	
						東御市	安曇野市	佐久穂町	(食費1/4)	下諏訪町	
						軽井沢町	富士見町	御代田町	中野市	泰阜村	
						高森町	阿南町	王滝村	信濃町		
						麻績村	山形村	朝日村			
						小島平村	野沢温泉村	飯綱町			
小計			18	10	7	35					
18歳到達後の3/31まで	18歳到達後の3/31まで	所得制限なし	13	28	41	小海町	川上村	南相木村	山ノ内町	南牧村	
						北相木村	立科町	青木村	(小学校就学~食費助成なし)	小布施町	
						長和町	原村	辰野町	高山村	(小学校就学~食費助成なし)	
						箕輪町	飯島町	南箕輪村		栄村	
						中川村	宮田村	松川町			
						阿智村	平谷村	根羽村			
						下條村	売木村	天龍村			
						喬木村	豊丘村	大鹿村			
						木曾町	上松町	南木曾町			
						木祖村	大桑村	筑北村			
						池田町	生坂村	松川村			
						白馬村	小谷村	小川村			
						合計			19	23	35

食費:入院時食事療養費及び入院時生活療養費  
原村は受給者負担金なし  
(その他の市町村の受給者負担金)  
・300円/レプト:小海町、南牧村、南相木村、軽井沢町、長和町、富士見町、中川村、松川町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村、木曾町、南木曾町、木祖村、小布施町、栄村  
・500円/レプト:上記以外

## 知事・県議選で窓口無料を争点に 福祉医療給付制度改善をすすめる会が総会

5月17日に県障害者福祉センターサンアップルにおいて、福祉医療給付制度改善をすすめる会(以下「すすめる会」)の総会が開催された。

冒頭、和田会長(小児科医)は署名活動の反響が大きく共感を呼んでおりお母さんがたが保育園、サークルなどで活動をした切実な願いをこめた署名が届けられている。来週県知事に手渡すが、これは終わりではなく実現させるために力を合わせていきたいと挨拶した。

引き続き、和田会長による「子どもの貧困と医療費窓口無料」と題した学習会を開催した。学習会では日本の子ども



すすめる会総会での子どもの貧困と医療費についての学習会

の貧困と医療費窓口無料」と題した学習会を開催した。学習会では日本の子ども

## 子ども障がい者の医療費窓口無料に 「信毎」意見広告取り組みに賛同募金呼びかけ

福祉医療給付制度の改善をすすめる会の信濃毎日新聞に意見広告掲載について、県保険協会では5月19日発送の郵送物に内容を紹介します

ており、終盤の国会包囲の段階では市川副会長(保団連理事)が国会正面からシュプレヒコールをあげる姿が見られた。

同行動は伊藤真美氏(花の谷クリニック院長)、勝田登志子氏(認知症の人と家族の会副代表)、川島みどり氏(日本赤十字看護大学客員教授)、本田宏氏(済世会栗橋病院院長補佐)の4人が呼びかけ、保団連、医労連、民医連、中央社保協が実行委員会をつくり行われた。医療・介護総合法案の撤回を求めた集会ピールは実行委員会代表により内閣府に提出された。

シを入れ賛同募金を呼びかけた。

意見広告は県知事への「要望署名」(関連記事1面)に続き、6月県議会を意識して、県民世論を更に喚起するため、信濃毎日新聞の6月20日前後、掲載紙面は半面を予定。「長野県でも、子ども・障がい者の医療費を窓口無料に」との主張等を意見広告として掲載する。

賛同個人名(団体名)は意見広告には掲載しないが、賛同者:氏名等の公表を希望する個人・団体は、「すすめる会」のホームページで順次公表する取り扱いとなっている。

賛同金:個人一口500円、団体一口3,000円(できれば2口以上、何口でも可)。  
募集期間:6月末日(厳守)  
長野県保険医協会の会員は協会宛に申し込む形。

### 福祉医療改善をすすめる会 ホームページを開設

福祉医療給付制度の改善をすすめる会ではホームページを開設している。  
<http://www.medical-post.net/fukushi>

## 改定について 各院所・各科 からの声を募 集中!

本号がお手元に届く頃は改定後2ヵ月経過となります。今回の診療報酬改定についての各科・各院所の声を募集しています。

改定内容をどう受けとめたか、改定項目、院所に特に関係する項目、また全体論でも可、原稿をお寄せください。

原稿は、本紙1面題字左の発行元まで、各種の通信手段でお寄せください。掲載にあたっては匿名可(その旨希望を記載下さい)。文字数は500~800文字の範囲。掲載分につきましては、2千円の図書カードを贈呈致します。

### 国会包むヒューマンチェーンに 長野協会の役員も参加

オバマ米大統領も来日していた4月24日の国会行動後の「輝け!いのちヒューマンチェーン行動(ヒューマンチェーン行動)」は、日比谷野外音楽堂での集会に始まり保団連をはじめ各地・各団体から500人以上が参加し、医療・介護の充実と医療・介護総合法案総合法案の廃案を求めて厚生労働省と国会を包囲した。厚生省包囲段階で長野県保険医協会の鈴木会長、林常任理事も加わっ

国会正面の交差点脇の演台に呼びかけ人の本田宏氏。その左手に保団連が並び市川理事(長野)の顔も見える